

令和2年度文京区中学生俳句大会 特選・入選作品発表

特選【佐怒賀 正美 選】

真冬の海フィルムカメラと私 東洋大学京北中学校 馬渡 美央

冬凧や夢追う我はこわれかけ 東洋大学京北中学校 高野 梨花

鳥渡るコンテナ待ちの線路わき 東洋大学京北中学校 藤本 逸太

両親の呼び名変えない秋日和 東洋大学京北中学校 井上 大暉

いわし雲擦り傷しみる鬼ごっこ 東洋大学京北中学校 磯貝 春佳

特選【松澤 雅世 選】

息白し都会の空に消えてゆく 第一中学校 クロスリー 真優

秋寒やモノクロームな大通り 東洋大学京北中学校 篠原 優太

冬の朝中和している海と空 東洋大学京北中学校 浦澤 淳生

白い足跡残したのは兎か風か 第九中学校 小出 奈菜

空走る血管のごと枯木立 お茶の水女子大学附属中学校 中口 ひより

入選【佐怒賀 正美 選】

秋うらら糸がほつれたパスケース 東洋大学京北中学校 工藤 如意

寒晴やみえはりすぎた持久走 東洋大学京北中学校 鈴木 菜摘

富士山も雪のこたつに入ってる 第九中学校 長谷川 光

雪の中意気揚々と駆けていく 第一中学校 黒木 佑真

ヒラヒラと感じる気配渡り鳥 第一中学校 門田 憲資

冷やかな音なき夜のおいかな 第九中学校 水落 雅香琴

こたつから手伸ばす先のコンセント 東洋大学京北中学校 山口 実夏

凍て星や音漏れイヤホン帰り道 東洋大学京北中学校 森 杏菜々

マフラーをぎゅっと結んで歩く朝 第一中学校 小林 美海

With コロナ小春日和の運動会 第九中学校 上田 遼太郎

入選【松澤 雅世 選】

毎日がもみじのように散っていく

第九中学校

黄 嘉慧

しんしんと雪降る音は子守歌

第九中学校

福田 英輝

冷やかな音なき夜のおいかな

第九中学校

水落 雅香琴

雪のよう参考書が積もりゆく

第九中学校

松岡 佑奈

秋風を乗りこなしてる風車

東洋大学京北中学校

石塚 玖真

うつつうしい母の小言と秋湿り

東洋大学京北中学校

岩瀬 雄暉

いわし雲色とりどりの自由帳

東洋大学京北中学校

宇佐美 光祐

うろこ雲未知の世界へ続く架け橋

文京学院大学女子中学校

池田 萌愛

静けさや木々がささやく秋の音

文京学院大学女子中学校

松本 結衣

【佐怒賀 正美 総評】

俳句では読者に「新鮮な感動」を伝えることが大切です。それは、季節を十分に感じながら、常識的ではない感動を見つけることです。中学生になると、教養も知恵もついてきます。またテレビや新聞をはじめ、情報があふれてきます。それらに引きずり込まれずに、自分の五感と心でいいねいに物を観察し感じ取るよう心がけてください。早くコロナが収まるといいですね。また来年のご応募を楽しみにしています。

【松澤 雅世 総評】

特一位、都会の風土とそこに暮らす人々の様を申し分なく捉えた佳品。特二位、この御作も都会の風景。秋寒の中で行き交う人をモノクロームと描写した佳作。特三位、「中和」の一語が実に巧みで、海と空の置き方が見事。特四位、雪上に残ったのは何の足跡かと問いかける。「兎か風か」の殊に風に思い入れた効果が大きい。特五位、すっかりと枯れた枝を「血管のごと」とした詩眼の持ち主。応募作品の数と秀れた作品の多さに、心が弾みました。